

第 6 專 門 技 術 群 (情報系)

第6 専門技術群（情報系） 専門研修の報告

第6 専門技術群運営委員会

1. はじめに

第6 専門技術群（情報系）は、平成25年9月11日（水）に京都大学原子炉実験所において専門研修を開催した。参加者数は14名で、専門技術群別にみると6群13名、3群から1名の受講があった。

今回の専門研修は、「核エネルギーと中性子等の粒子線・放射線の利用」に関する最前線の教育研究現場である原子炉実験所において、核・放射線分野の技術等について学び、さらに同実験所において、福島原子力災害を受け新たに開発された「GPS連動型放射線自動計測システム（KURAMA）」に関する講義から、情報処理に関する具体的な研究開発事例を学び今後の職務の遂行に資することを主要な目的として実施された。

本稿では、プログラムに沿ってその要旨を述べ報告とする。

2. 講義「GPS連動型放射線自動計測システムKURAMA」

原子炉実験所 谷垣 実助教による「GPS連動型放射線自動計測システムKURAMA」についての講義が行われた。

KURAMAは空間線量率の測定値と測定位置情報を同時に記録するとともに、遠隔地において測定結果をリアルタイムで共有し、3Dの地図上に表示して分布状況を確認するなどを可能にするシステムで、これまでの高価で大型の測定車と比べ低コスト、省スペース、高性能な測定システムとして今回の東日本大震災で絶大な役割を果たしたことが紹介された。

また、技術職員に期待することとして、「自分の得意分野の役立て方を考え、躊躇せず堅実に行動すること」「自己満足で終わらないこと」等、日々仕事に取り組む上で大切な視点を示唆していただいたことは貴重な経験となった。



（講義風景）



（KURAMAを搭載したバイク）

3. 施設見学、概要説明及び質疑応答

施設見学に先立ち、原子炉実験所の紹介ビデオによる概要説明と鈴木 実教授による「中性子を使って癌を治す」と題した研究紹介があった。

その後、2グループに分かれ研究用原子炉（KUR）やホットラボラトリ、放射性廃棄物処理の現場を見学した。原子炉実験所で働く多くの技術職員の仕事内容に関する理解が深まり、また同じ技術職員として職務に対する刺激も受け有意義なものになった。



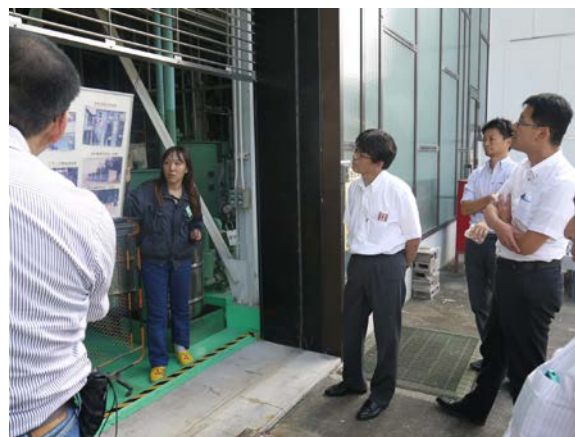
(研究用原子炉建屋内)



(放射能被ばく測定検査)



(研究用原子炉内部)



(放射性廃棄物処理の現場)

4. まとめ

平成25年度の専門研修は、第5専門技術群職員が多く勤務している原子炉実験所での研修会を実施した。情報系技術職員にとっても興味深い「GPS連動型放射線自動計測システムKURAMA」の講義や他の群の技術職員の仕事内容を知ることによって刺激を受け、大変有意義な研修会になった。

最後にこの研修会における「研修プログラム」「参加者名簿」「役割分担表」を掲載する。

<研修プログラム>

時 間	内 容
8:30	集 合（京大正門前）
9:00～11:00	移 動
11:00～12:00	講 義 「GPS 連動型放射線自動計測システム KURAMA」 講師：原子炉実験所 谷垣 実助教
12:00～13:00	昼 食
13:00～15:30	原子炉実験所 施設見学（概要説明および質疑応答）
15:30～17:30	移 動
17:30	帰学 解散

<参加者名簿>

	所 属	氏 名	所属専門技術群
1	情報部情報基盤課	富浦 雅雄	第6専門技術群
2	情報部情報基盤課	外村 孝一郎	第6専門技術群
3	情報部情報基盤課	池田 健二	第6専門技術群
4	情報部情報基盤課	疋田 淳一	第6専門技術群
5	情報部情報推進課	宮部 誠人	第6専門技術群
6	情報部情報基盤課	平野 彰雄	第6専門技術群
7	理学研究科情報技術室	片桐 統	第6専門技術群
8	理学研究科 附属地球熱学研究施設	馬渡 秀夫	第3専門技術群
9	工学研究科附属情報センター	奥中 敬浩	第6専門技術群
10	生命科学研究科	澤田 浩文	第6専門技術群

11	基礎物理学研究所	福村 一三	第6専門技術群
12	数理解析研究所	岸本 典文	第6専門技術群
13	原子炉実験所	平井 康博	第6専門技術群
14	フィールド科学教育研究センター	槇田 盤	第6専門技術群

<役割分担表>

担当内容	担当者氏名
受付・点呼	片桐 統
渉外	平井 康博
写真	槇田 盤